

平成 29 年度第 1 回津山市立図書館協議会会議録

日 時：平成 29 年 9 月 19 日

午後 2 時～3 時 30 分

会 場：津山市立図書館 集会室

出席委員 竹内委員長 原田委員 内田委員 小椋委員 小林委員 椋代委員

國米委員 佐藤委員 菅原委員 畝本委員 土井委員 金崎委員

欠席委員 頭士委員 浅村委員 西尾委員

事務局 原田教育長 松尾部長 小川館長 大河原

1. 開会

2. 教育長挨拶

図書館は 8 月に来館 700 万人を達成し、来年 4 月には創設 40 周年をむかえる。読書離れと言われて久しいが、これからの図書館の運営について、忌憚なくご意見をいただきたい。

3. 委嘱状交付

原田委員（高専図書館長交代）土井委員（公民館長会 交代）

※浅村委員欠席

4. 自己紹介 （略）

5. 議事

（1）副委員長選出について

原田委員を選出

（2）視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

畝元委員、土井委員、金崎委員を選出

（3）平成 28 年度津山市立図書館及び視聴覚ライブラリーの利用状況について

館長 図書館の利用状況は微減が続いている。本館の来館者数は前年度比で 97.7%、全館の貸出冊数は 99.7%。資料費減の影響も否定できない。高齢者の利用は増加傾向にある。

菅原 アンケートの対応についてどうしているか。

館長 アンケートでいただいた意見のうち、対応できるものは対応している。

佐藤 アンケートは来館者外の方にこそお願いしたいもの。登録時にアンケートをお願いするのはどうか。

菅原 マナーについてはどうか。

館長 マナーについては、静かにしてほしいという意見もあるが、高齢者の方の話声が大きくなるのも仕方がない部分もあるので、適時様子を見ながら対応させていただいている。

佐藤 勝北図書館など地区館の利用が増えているようだが。

大河原 地区館の駐車場が便利だということで、本館の利用者さんも地区館を利用される方が増えている。また市外近隣地域の利用もある。担当職員も書架展示をして、工夫している。

内田 加茂は人口が減っている。職員さんには丁寧に対応させていただいている。

國米 久米でたくさん本を借りていた人が本を読んでしまって、今は勝北に行っている。

内田 加茂と勝北を利用しているが、勝北の方が本の選び応えがある。

小林 勝北地域外からも利用が多いと思う。勝北は本を借りやすいと聞いている。

椋代 勝北では読み聞かせに中学校まできてもらっている。

委員長 減少傾向にあると言いつつも、職員が努力してこのくらいの減少ですんでいる。登録者数はふえているが、累計しているのか。

館長 登録者数は累計していて、減員できていない。アルネ全体の入館者数も減っている。

竹内 駐車券はどうか。また資料費はどうか

部長 昨年度から図書館からの支払いが定額になったため、負担感は減少した。資料費は予算編成時に全体に枠をかけている状況。合併特例等の増額分が減ってきている。市の財政も厳しい状況にある。

竹内 来年には40周年をむかえると聞いた。低い資料費がさらに低くなるのはつらい。ぜひ教育・文化政策にはお金をかけていただきたい。

館長 全国のトップクラスの市の資料費は人口一人当たり841円、津山市では156円。

國米 ボランティアで子ども読書推進にかかわっている。予算が少ないというだけでなく、行政からもねん出し、また寄付を集めるなど工夫もしていただきたい。

委員長 やわらかい発想で。さくらまつりなども企業から300万円くらいはいただいている。

(4) 平成29年度津山市立図書館主要事業について

館長 3館連携10周年記念事業（津山市立図書館・美作大学図書館・津山高専図書館、市内6高校）として平成30年1月20日に記念事業を予定している。記念講演会、パネルディスカッション、記念映像の作成、記

念パンフレットの作成の準備を進めている。あらためてご案内をさせていただくので、ご参加いただきたい。

委員長 ビブリオバトルとあるが、何か。

館長 書評合戦。本を紹介し合ってその時に一番読みたくなった本を選ぶイベント。

(5) 津山市立図書館40周年記念事業について(平成30年4月)

館長 創立40周年記念事業の核として図書館総合展の地域フォーラムを申請している。10月に内定があれば、決定して準備にはいる。

委員長 40周年を機会に市民の図書館利用人口を増やすために民間でできることを検討していただきたい。民間の知恵を借りてはいかがか。

畝本 市内の人が本に親しむきっかけになれば。

小椋 阿波地域は図書館がなく、自動車文庫に来てもらっているが利用も減っている。

國米 寄付金をつのってはどうか。

佐藤 40周年記念事業の狙いをはっきりさせていただいて、市民に向けた事業であれば協力できる。

國米 高校生が参加して、将来的にUターンにつながるような場になるのも望ましい。

原田 大義名分が大切。3館連携10周年記念事業でも同じ話が出た。この機会に資料を整理して記録することは大切だと思う。

土井 高田地域では寄付で歴史と文化の冊子を作った。津山でも寄付を得られるのでは。

金崎 40周年記念ということでこれをしたという「もの」ができればいいのでは。

竹内 民間を上手に使ってほしい。

7. 閉会挨拶